



2019年3月期 通期

# 決算説明補足資料

2019年5月10日

株式会社アイ・ピー・エス

証券コード 4390

## 決算概要

売上高：5,780百万円      営業利益：945百万円

## 事業概要

フィリピン国内にて通信事業を行うInifiniVANが堅調。  
医療・美容事業もレーシック手術件数が伸長。

## 来期業績予想

売上高：7,000百万円      営業利益：1,200百万円

**1 | 2019年3月期 決算概要**

**2 | 2019年3月期 Topics**

**3 | 2020年3月期 業績予想**

# 1 | 2019年3月期 決算概要

## 【2019年3月期 連結実績】

(単位：百万円)

	2018年3月期 通期実績	2019年3月期			
		通期実績	前年比	通期予想	通期予想達成率
売上高	5,327	5,780	452 (+8.5%)	6,107	94.6%
営業利益	902	945	42 (+4.7%)	921	102.6%
経常利益	819	1,001	182 (+22.3%)	906	110.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	480	588	107 (+22.4%)	555	106.0%

### 2019年3月期 通期実績分析

- 売上高：フィリピン国内通信事業が本格的に事業を開始したことにより、増収
- 営業利益：フィリピン国内通信事業が本格始動により損益が改善し、医療・美容事業の伸長もあり増益
- 経常利益：円安による営業外収益に為替差益73百万円を計上し、増益
- 親会社株主に帰属する当期純利益：円安による為替差益などにより増益

## 【2019年3月期4Q 連結実績】

(単位：百万円)

	2018年3月期 4Q	2019年3月期					
		1Q	2Q	3Q	4Q	前年同期比	前四半期比
売上高	1,450	1,387	1,354	1,444	1,593	143 (+9.0%)	149 (+9.4%)
営業利益	274	259	213	221	251	▲23 (▲9.2%)	30 (+12.0%)
経常利益	188	335	282	117	266	78 (+29.5%)	149 (+56.0%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	70	196	194	55	141	71 (+50.2%)	86 (+61.0%)

### 2019年3月期4Q 実績分析

- 売上高：医療・美容事業と国内通信事業の売上が増加したことにより、前年同期比増収。
- 営業利益：海外通信事業においてマニラ地区での単価下落や在留フィリピン人関連事業が低調に推移したことにより、前年同期比減益。
- 経常利益：為替差益等により、前年同期比増収。（前第4四半期は為替差損を計上。）
- 親会社株主に帰属する当期純利益：経常利益の増加等により前年同期比増収。

## ■海外通信事業

	2018/3	2019/3	前年比率	(単位：百万円)
売上高	1,561	1,503	▲57 (▲3.7%)	
営業利益	565	489	▲76 (▲13.5%)	
利益率	36.2%	32.6%	—	

国際通信回線の提供容量は拡大するも、マニラ地区のCATV事業者向けの契約更新時の値下げ幅が想定以上。

## ■フィリピン国内通信事業

	2018/3	2019/3	前年比率	(単位：百万円)
売上高	73	354	280 (+379.5%)	
営業利益	▲108	▲12	96 (-)	
利益率	—	—	—	

マニラ首都圏CBDでの法人向けサービスの提供先が順調に推移したものの、顧客獲得のための先行投資などの4Qに一時費用が発生。

## ■国内通信事業

	2018/3	2019/3	前年比率	(単位：百万円)
売上高	2,741	<b>2,895</b>	153 (+5.6%)	
営業利益	274	<b>268</b>	▲5 (▲1.9%)	
利益率	10.0%	<b>9.3%</b>	—	

MVNO事業者向けサービスの売上が減少。ただ秒課金サービスやコールセンタシステムAmeyoJなどのコールセンター向け事業者向けサービスが好調。売上・利益ともに増加。

## ■在留フィリピン人関連事業

	2018/3	2019/3	前年比率	(単位：百万円)
売上高	365	<b>264</b>	▲101 (▲27.7%)	
営業利益	11	<b>▲40</b>	▲51 (-)	
利益率	3.1%	—	—	

厳しい採用環境の影響で人材の確保が難しく、人材派遣・職業紹介が減収・減益。ジョブフェア（集団就職面接会）等新事業の拡大で、収益の改善を図っている途上。

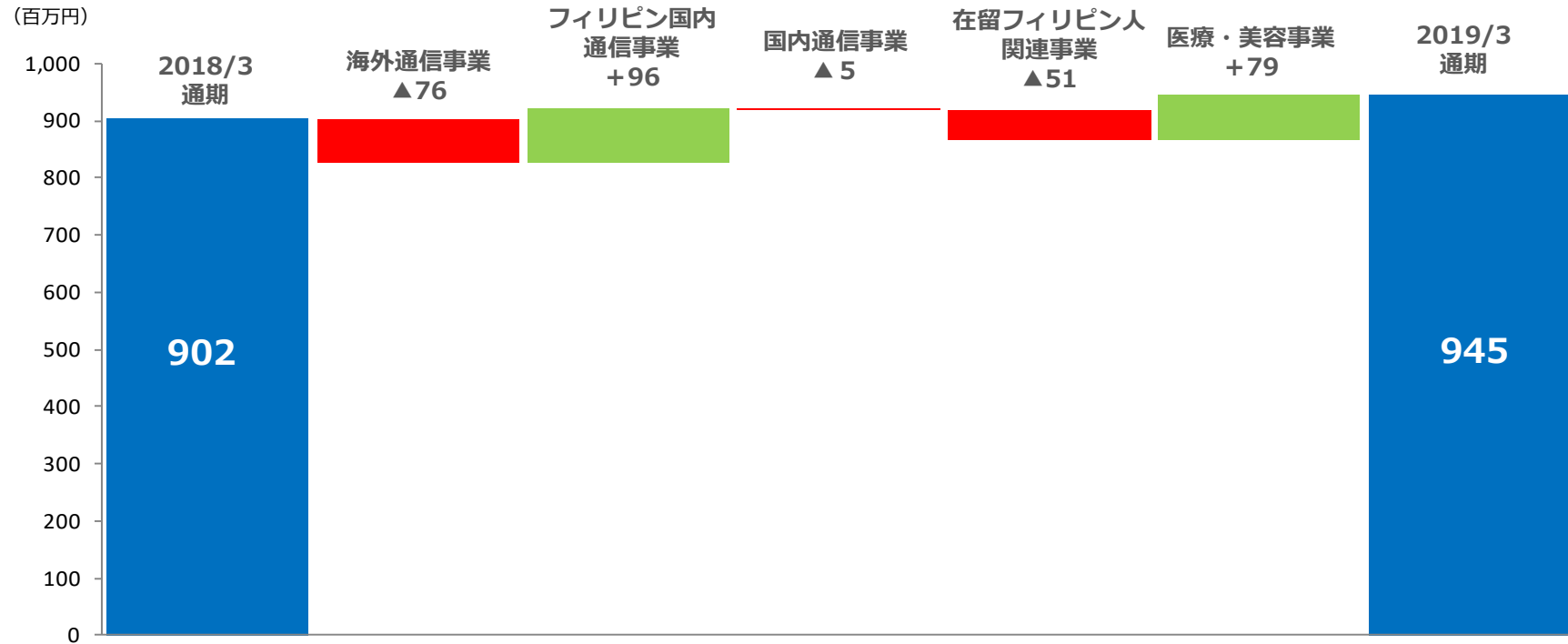


## ■医療・美容事業

	2018/3	2019/3	前年比率	(単位：百万円)
売上高	585	762	177 (+30.4%)	
営業利益	160	240	79 (+49.7%)	
利益率	27.4%	31.5%	—	

レーシック施術が好調に推移。SNSを使ったマーケティング・銀行などとの提携による顧客層の拡大や、医療機器設備の増強を図り、売上・利益ともに大幅に増加。

## フィリピン国内通信事業と医療・美容事業が利益拡大を牽引。



## 連結貸借対照表（サマリー）

（単位：百万円）

資産の部				負債・純資産の部			
	2018年3月期末	2019年3月期末	増減		2018年3月期末	2019年3月期末	増減
流動資産	2,936	5,142	2,205	流動負債	1,827	2,306	479
現金及び預金	1,410	2,512	1,101	買掛金	410	406	▲ 3
売掛金	614	1,011	396	借入金・社債	387	300	▲ 87
リース投資資産	608	1,247	638	その他	1,030	1,600	570
その他	302	371	68	固定負債	982	711	▲ 271
				負債合計	2,810	3,018	207
固定資産	1,308	1,603	294				
有形固定資産	714	868	154	純資産	1,435	3,728	2,292
無形固定資産	108	198	89	株主資本	1,236	3,170	1,934
投資その他資産	485	536	50	累積包括利益	19	▲ 45	▲ 64
				非支配株主持分	179	603	423
資産合計	4,245	6,746	2,500	負債・純資産合計	4,245	6,746	2,500

### 注記

- 現金及び預金の増加は、東京証券取引所マザーズ市場上場時の公募資金増資やオーバーアロットメントによる第三者割当増資等による。
- 純資産の増加は、上場時の増資とストックオプション行使により、資本金と資本準備金が増加したこと、当連結会計年度における親会社株主に帰属する四半期純利益の増加に伴い、利益剰余金が増加したことによる。

## 2 | 2019年3月期 Topics

## 1. 契約事業者数推移

	2013/34 Q	2019/3 1Q	2019/3 2Q	2019/3 3Q	2019/3 4Q
マニラ首都圏・マニラ郊外	17	17	17	17	17
それ以外	3	3	3	7	7
合計	20	20	20	24	24

## 2. 第4Qのビサヤ・ミンダナオ地域の実績

タンタグ（ミンダナオ）回線手配中

ダバオ（ミンダナオ）お客様都合キャンセル

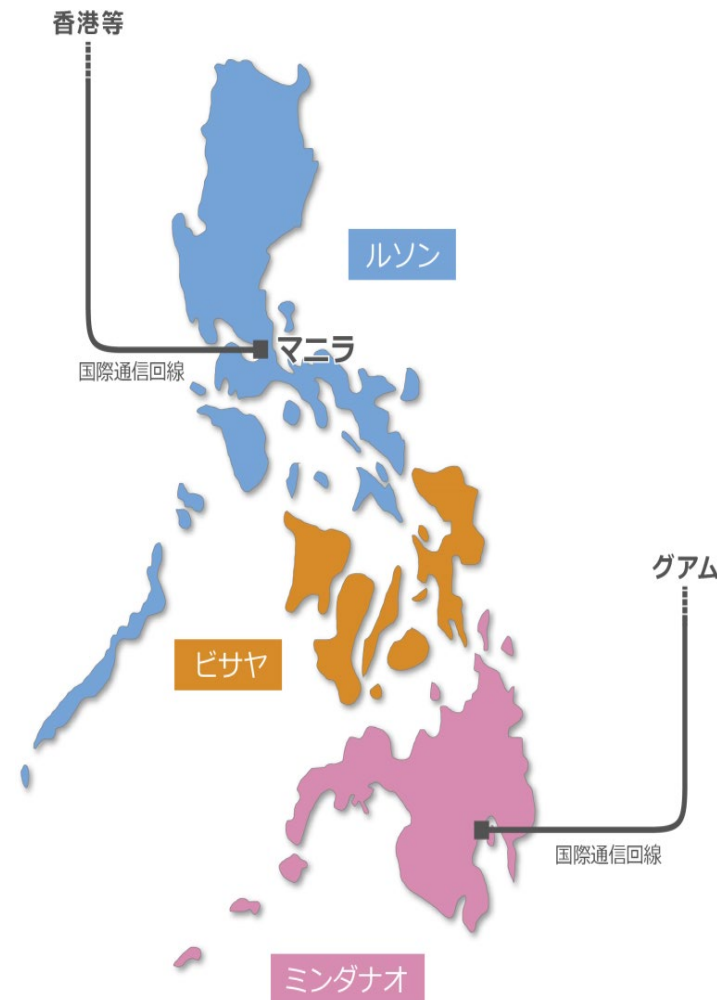
イロイロ（ビサヤ）回線手配中

セブ（ビサヤ）回線手配中

コタバト（ミンダナオ）5月回線開通予定

ドゥマゲッティ（ビサヤ）回線手配中

セントジョセフ（ルソン）契約済 4月サービス開始済

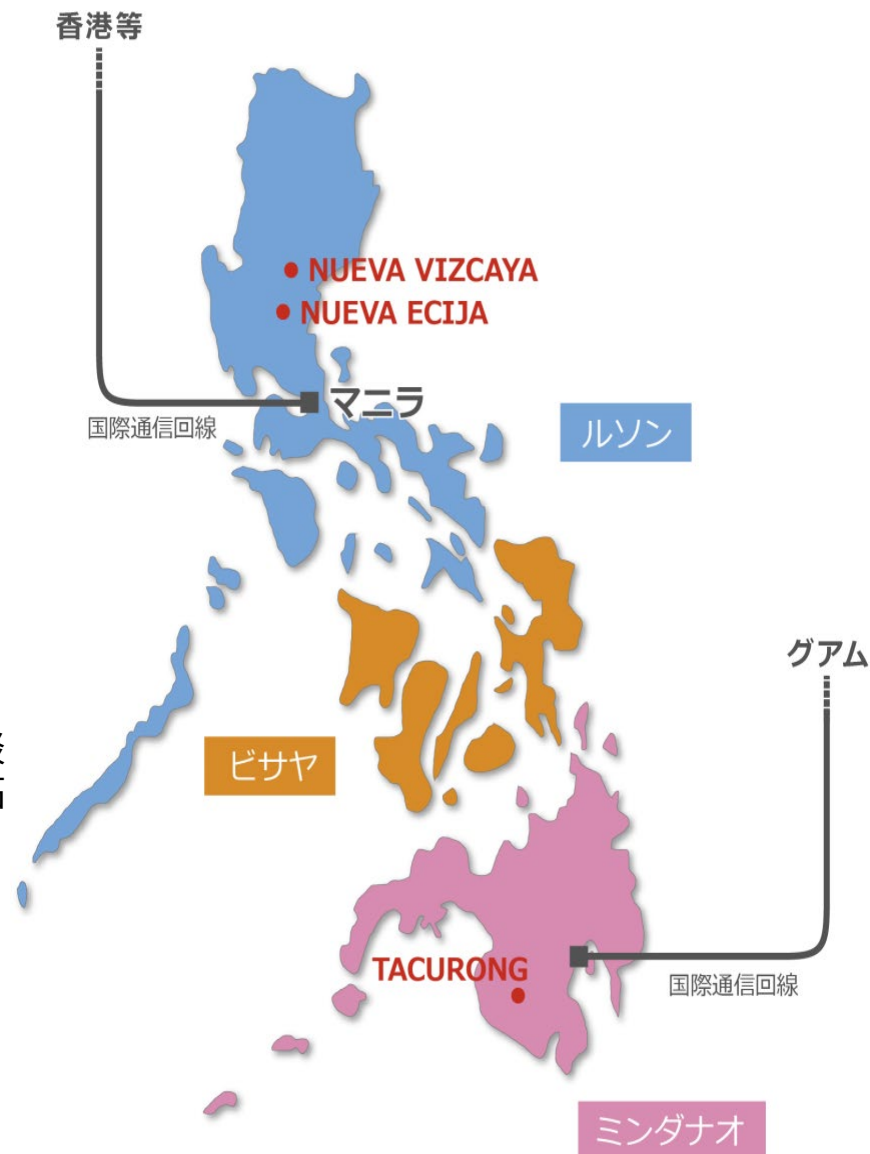


## 3. 第1Qのビサヤ・ミンダナオ地域の計画

ルソン島2か所とミンダナオ島1か所で、開通に向けて準備中。

確かに地方の案件は、商談は多い。  
ただ新規に通信回線・設備を置かないといけないものが多く、サービス提供に時間が掛っているのが現状。

設備を事前に確認して、リードタイムが短いものを中心に商談を進める・自社グループでの回線を敷設するなど、地方を開拓するための方法を修正している。（次頁）



## Topics 2 ミンダナオ島開拓（2018年3Q・4Q）



2019年4月 InfiniVAN社が自前の大型ネットワークを敷設予定。  
ミンダナオ島内主要都市とダバオを結ぶ回線、約2,300キロを建設。



**工事区間距離：**約2,300キロメートル

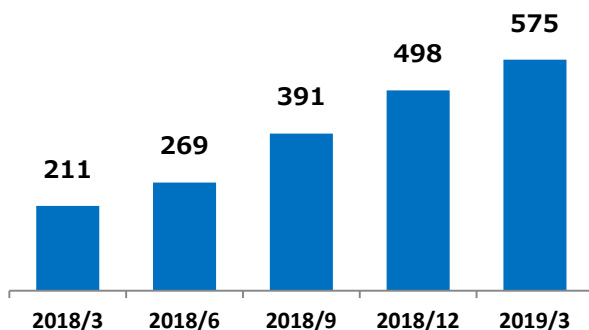
**顧客対象：**沿線にあるCATV事業者は、150社

**時期：**2019年中の開通を計画

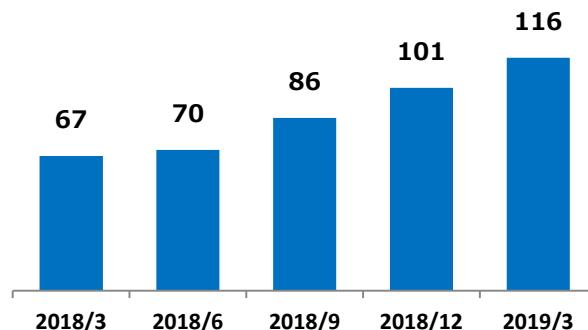
**趣旨：**地方の案件は、既存の回線・通信機器とも、想定以上に不十分で、他社任せにしておくと開通時期が見えないケースが多かったこと。

## マカティでの法人向けインターネットサービス事業の進捗状況

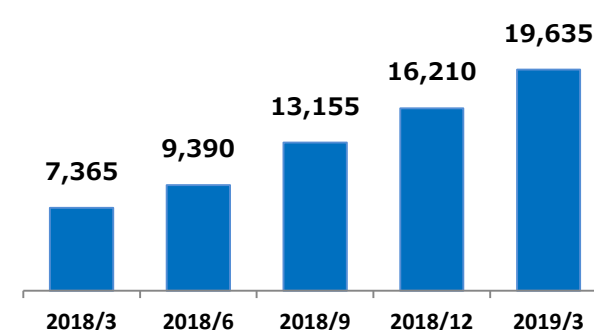
法人顧客数 (単位: 社)



ビル数 (単位: 棟)



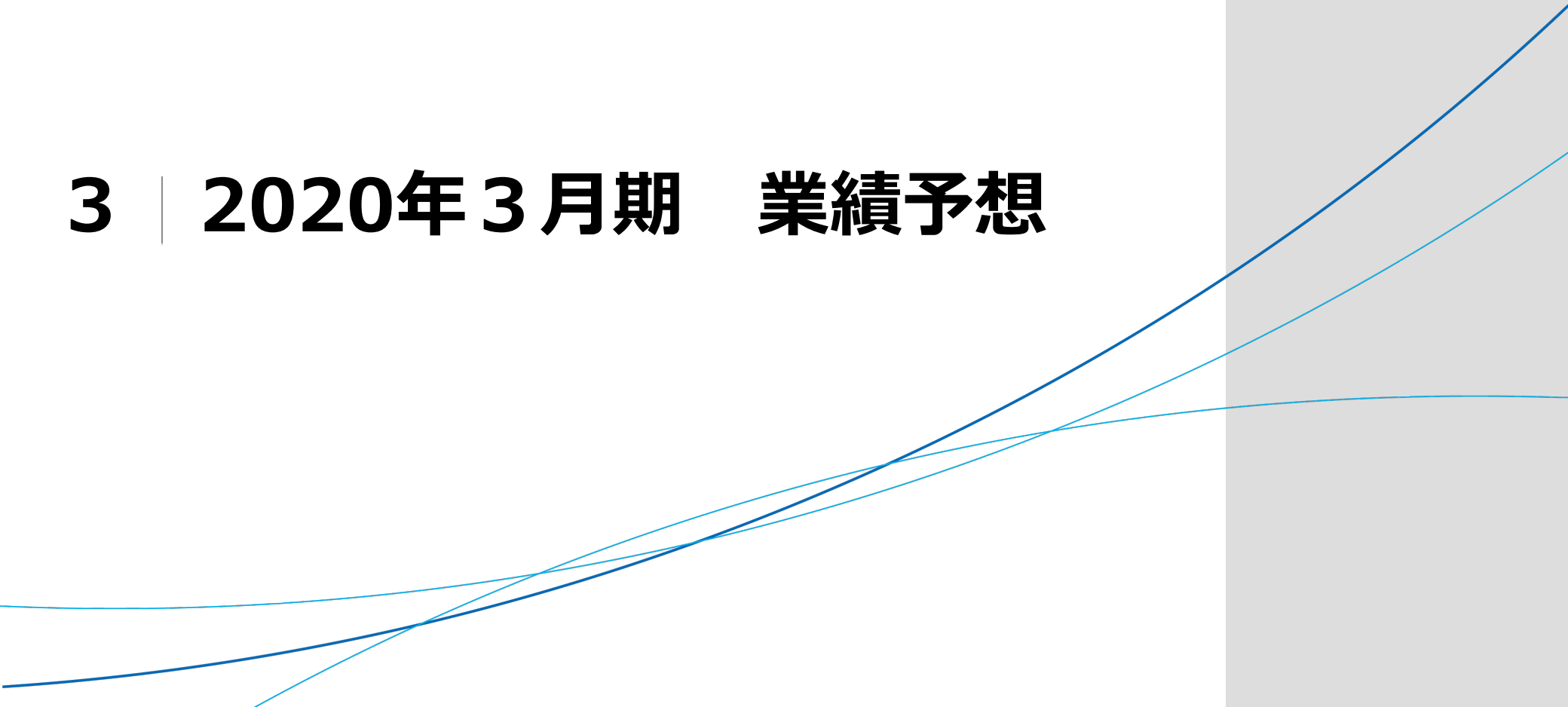
開通済み帯域量 (単位: mbps)



大型案件の開通の遅れはあったものの、顧客数・ビル数の増加は順調。



# 3 | 2020年3月期 業績予想



(単位：百万円)

	2019年3月期 通期実績	2020年3月期	
		通期予想	前年実績比
売上高	5,780	7,000	1,219 (+21.1%)
営業利益	945	1,200	254 (+26.9%)
経常利益	1,001	1,190	188 (+18.8%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	588	640	51 (+8.8%)

## 通期予想の概要

- 売上は70億円、営業利益は12億円を計画。
- 海外通信事業では、ミンダナオ島などの地方案件の積極的な獲得を計画。
- フィリピン国内通信事業では、法人向けインターネット接続サービスの安定的な拡大を図るとともに、ミンダナオ島での光ファイバー敷設など、積極的な投資を計画。
- 国内通信事業では、引き続きコールセンター向けサービスの拡大を計画。
- 在留フィリピン人関連事業では、旺盛な人材需要に対応した体制の再構築中。
- 医療・美容事業では、引き続きレーシックの拡大を計画。

# 2020年3月期 セグメント別業績予想



(単位：百万円)

セグメント	2019年3月期	2020年3月期予想	前年比	
			増減	増減率
<b>売上高</b>	<b>5,780</b>	<b>7,000</b>	<b>1,219</b>	<b>21.1%</b>
海外通信事業	1,503	1,565	61	4.1%
フィリピン国内通信事業	354	1,010	655	184.9%
国内通信事業	2,895	3,190	294	10.2%
在留フィリピン人関連事業	264	400	135	51.5%
医療・美容事業	762	835	72	9.5%
<b>営業利益</b>	<b>946</b>	<b>1,200</b>	<b>253</b>	<b>26.8%</b>
海外通信事業	490	540	49	10.0%
フィリピン国内通信事業	▲ 12	130	142	—
国内通信事業	268	270	1	0.4%
在留フィリピン人関連事業	▲ 40	0	40	—
医療・美容事業	240	260	19	8.2%
<b>営業利益率</b>	<b>16.4%</b>	<b>17.1%</b>	<b>—</b>	<b>—</b>
海外通信事業	32.6%	34.5%	—	—
フィリピン国内通信事業	—	12.9%	—	—
国内通信事業	9.3%	8.5%	—	—
在留フィリピン人関連事業	—	—	—	—
医療・美容事業	31.5%	31.1%	—	—

## ■ 海外通信事業

最大手通信事業者の家庭用ブロードバンドサービスの2018年の売上が、前期比3割以上伸びているように、ルソン島ではブロードバンドサービスのユーザーが増え、データ通信の需要は高まっております。伝送技術の発達による単価の下落はあるものの、市場の拡大もあり、既存の顧客への売上は前年並みを想定しております。

また前述のミンダナオ島で自社のネットワークを利用したCATV事業者向けサービスにつきましては、すでに顧客からの内示をいただいている案件もありますが、敷設工事が遅延する可能性もあり、第3四半期から第4四半期から課金が開始するものと想定しております。帯域当たりの単価については、仕入れ事業者側の原価の削減も限界が来ており、昨年ほどの下げ幅にはならないと考えております。

## ■ フィリピン通信国内事業

法人向けブロードバンドサービスの売上は、安定的に伸長し、ストックビジネスとして収益が積みあがることを想定しております。

しかし上記のフィリピン各地での回線敷設に関して、道路使用料が工事前から発生するなど、先行投資にかかる費用が、今期は大きく掛かることを同時に想定しております。なお現在計画している回線敷設のプロジェクトで収支に影響するもののうち、1件の鉄道への敷設に関しては収支に反映させております。

## ■ 国内通信事業

コールセンター向けのサービスは、今期も堅調に推移するものと考えております。電気通信事業法の改正が、当社が対象とするコールセンター向けサービスに影響する可能性があります。現時点で影響する可能性があるのは本事業の売上の1%に満たないこと、3年間の猶予期間があるため特設法改正に影響を受けることはないと考えております。従って昨年度と同様の市場環境が続くものとして想定しております。他の通信事業者向けに提供している音声通信サービスについては、客先でエンドユーザーの獲得が進み、需要が旺盛であること、当社でもサービス提供のための通信機器を前期終わりに用意できたため、今期はこれも成長するものと想定しております。

## ■ 在留フィリピン人関連事業

旺盛な人材需要を収益化するための体制を再構築しており、人材関連事業が堅調に推移するものと想定しております。携帯電話だけでなく、電気サービスなど他社のサービス・プロダクトを在留フィリピン人向けに紹介する構想もありますが、商談中にとどまっておりますので、含まれておりません。また法改正による在留資格の追加、それによる外国人労働者の積極的な受け入れの流れに対する取り組みは、検討中であり、上記計画には含んでおりません。

## ■ 医療・美容事業

引き続き経済成長を受けて、富裕層などの消費が活発であることを想定できることから、レーシックなどが好調に推移すると想定しております。あわせて美容皮膚科でも機器購入を行っており、堅調に推移することを想定しております。

会社名  
(英文社名)

株式会社アイ・ピー・エス  
IPS, Inc.

設 立

1991年10月

本社所在地

〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル8階

事業内容

海外通信事業：フィリピンのCATV事業者等に国際通信回線を提供

フィリピン国内通信事業：フィリピン国内での法人向けISPの提供

国内通信事業：日本国内での通信サービスの提供

在留フィリピン人関連事業：日本国内での在留外国人向け求人サービスの提供など

医療・美容事業：フィリピンでの医療・美容サービスの提供

グループ企業

連結子会社(特定子会社)

KEYSQUARE INC.

Shinagawa Lasik & Aesthetics Center Corporation

InfiniVAN, Inc.

- ▶ 本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- ▶ 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- ▶ 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- ▶ 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。

《IRに関するお問い合わせ先》

株式会社 アイ・ピー・エス  
〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1  
東劇ビル8階

TEL: 03-3549-7719 FAX: 03-3545-7331